

Takashimaya Sotaro

A Devotion to Painting



Painting the Visible, the Perceptible, and the Invisible

# 高波壮太郎

## 特別展 新収蔵記念 全身画家



見るもの、  
見えるもの  
見えないもの  
を描く



2024年  
1月11日[木] — 2月26日[月]

※会期は変更となる場合がございます  
開館時間 = 10:00-17:00(入館は16:30まで)

会場 = 高島屋史料館企画展示室 休館日 = 火・水曜日 [入館無料]

[上から]《威風堂々》2016年 高島屋史料館蔵、《ツユクサ》(部分)2008年 作家蔵、《千両万両》(部分)2008年 作家蔵、《ツユクサ》(部分)2008年 作家蔵、《臥龍桜》(部分)2007年 高島屋史料館蔵、《その時にしか流れていない時間》2016~2019年 高島屋史料館蔵

高島屋史料館

Takashimaya Archives

 Takashimaya



《私は海を抱きしめて》(部分) 2020年  
高島屋史料館蔵



《落陽》2021年 個人蔵



《エジプト》1975年 作家蔵



《恋》  
2018年  
個人蔵



《宇宙の法則(Jungle/太陽/月/雨)》2003年 高島屋史料館蔵

「絵を描くことは、生きること」と断言する画家 高波 壮太郎(1949—)。1990(平成2)年に高島屋大阪店で開催した初個展以来、高島屋各店の美術画廊で個展を重ね、その回数は延べ100回を超えています。自らのほとばしる感情に突き動かされ、納得がいくまで絵の具を塗り重ねる(時にはチューブから直に絞り出す)、命懸けともいえる激的なマチエール(仏語 matière…絵肌)の作品は、見る者を圧倒します。全身全霊を注ぎ込み、次々と作品を生み出すそのさまを「全身画家」とも形容される高波。どの団体にも属さない孤高の画家は、近年、活躍の場を海外にも広げています。

このたび、高島屋史料館へ寄贈された大作の数々と共に、美大生時代の作品から近作まで、50年余りの画業をたどる特別展を開催いたします。当館では初めてとなる、現存作家の作品のみで構成する展覧会です。生と死を見つめ続け、油彩画、手彩色木版画、立体、コラージュ…、さまざまな手法で、見るもの、見えるもの、そして見えないものまでをも描く、全身画家 高波壮太郎の魂の芸術を、どうぞご堪能ください。



《紅い花の咲く頃》  
2016年  
個人蔵



《鳥》1987年 高島屋史料館蔵

### イベントのご案内

※詳細は当館ホームページをご覧ください。  
※状況により、イベントを中止する場合がございます。

### 作家トークショー

要申込み・抽選制

### 「絵画への情熱 高波壮太郎の芸術」

■聞き手=中澤一雄氏(元高島屋美術部顧問)

■1月14日[日]

13:00~14:30

■会場=多目的ルーム

■定員=20名

※参加無料、  
当館ホームページより  
お申込みください。

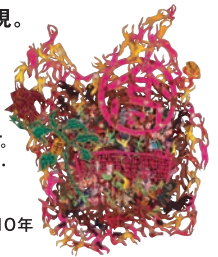


### 来館者参加型企画

### 「SOUL CONNECTION」

高波壮太郎が2012年に世界各国で行った「すべての垣根を越えて、人・心の輪が繋がっていく」というメッセージが込められた参加型パフォーマンスを再現。

お好みの色紙にご自身の人型(心・人間)をお描きください。  
会期中に寄せられた人型を、繋がり合う形にコラージュしながら作品を完成させていきます。  
※お申込み不要、参加自由、色紙・筆記具はご用意しています。



《大阪の街》2010年  
高島屋史料館蔵

### 学芸員によるギャラリートーク

■会期中の毎週土曜日 14:00~(約30分)

※お申込み不要、開始時間までに企画展示室にお集まりください。



【アクセス】 南海電鉄・大阪メトロ「なんば駅」、近鉄・阪神「大阪難波駅」より徒歩約10分  
近鉄・大阪メトロ「日本橋駅」5・10番出口より徒歩約8分  
※専用駐車場はございません。近隣の有料駐車場をご利用ください。

【住所】 〒556-0005 大阪市浪速区日本橋3-5-25 高島屋東別館3階  
TEL. 06-6632-9102

<https://www.takashimaya.co.jp/shiryokan/>

